

ストリートチルドレンへの 教育（権利保障）

ADYF edu-wings

倉嶋麻里 本嶋孔太郎 金丸博樹
森愛実 太田優人 野田麻美

子どもの権利条約

～子供の貧困をなくすために～

今年には**子供の権利条約**が採択されて25周年。

生きる権利、守られる権利、参加する権利、育つ権利

条約が掲げるこの4つの権利は、世界中の子供たちに十分広まったといえるだろうか？

確かに、全体的には子供の貧困問題は改善されたかもしれない。しかし、まだ手が届いていない子供たちが確かに存在する。彼らの状態を知り、適切な支援を届けることは私たちの責務なのだ。

index

1 ストリートチルドレンとは？

2 ストリートチルドレンの問題と権利侵害

～人間らしく生きられない～生きる、守られる権利の侵害

～教育を受けられない～育つ、参加する権利の侵害

3 問題を解決するために

4 life skill training(LST)

①定義②注目したNGO(bahay tuluyan・kanlungan)とプロジェクト③効果④課題

6 alternative learning system(ALS)

①定義②注目したNGO、公機関とプロジェクト③効果④課題

7 考察と結論

8展望



1 ストリートチルドレンとは？

ストリートチルドレン(SC)とは？



- ✦ 「ストリートチルドレンは、**ストリート**を居住地あるいは生活の糧としていて、**大人から適切に保護・監督**されていない**子供**である」（国連の採用する定義）

SCの分類

- ✦ SCの全てが孤児というわけではなく、その大部分は家族とのつながりがある。UNICEFはSCを以下の3種類に分類している。

Children on the street... 家計を助けるため路上で働くが、家族とのつながりがあり、夜には家に帰る子供。全体の約7割。

Children of the street... 家族との弱いつながりがあり、不定期に家族のもとへ帰る子供。全体の約1割。

Abandoned children... 一般に言われるところのSC。家族がおらず、路上で生活する。

フィリピンにおけるSC



- ✦ 1998年の調査で、フィリピンにはおよそ22万人のSCがいると推計された。うちマニラには5～7万人のSCがいるとされている。
- ✦ 高い人口増加率のもとで、年々新たなSCが発生している。

→SCが社会問題となっている

フィリピンにおけるSC②

✦ フィリピン政府の取り組み

SC支援は困難を伴う上、数値にも表れないため、政府はこれに対して消極的である。

フィリピン政府は、一応SCへのプログラムを行ってはいるものの、場当たりの対応で、有効に機能していないことが多い。(例:レスキュープログラム)

→政府のみのSC支援には限界がある。

フィリピンにおけるSC③

✦ 民間組織の取り組み

フィリピンには、SCを支援するNGOが多く存在し、ネットワークを構築している。支援の内容は多岐にわたる。

→フィリピンのSC支援において民間組織の果たす役割は大きい。



2ストリートチルドレンの 問題・権利侵害

Problem



I 人間らしく生きられない

II 教育を受けられない

I 人間らしく生きられない

①日常生活の中での命の危険

不安定で不衛生な環境のため、ドラッグ依存やAIDS、病気になりやすい。犯罪に巻き込まれたり、警官から暴力を振るわれることもある。

cf)56.6%が薬物を使用 27.5%が逮捕経験 (UNICEFの2002年調査)

②正常な人間関係が築けない

親の愛情を知らないことが多い上、路上生活には規範がないため、SCは人間らしい豊かな内面性に欠け、正常な人間関係を築けない。

→生きる、守られる権利の侵害

Ⅱ 教育を受けられない

SCの多くは教育を受ける権利を侵害されている。

:55%が学校に通えていない。(UNICEFの2002年の調査)

①**外的要因**...通学費用が払えない、日中働く必要がある、など

②**内的要因**...勉強に興味を持たない、仲間から学校に行かないよう圧力を受ける、など

結果として、将来よい職に就き、貧困から脱却する可能性も奪われている。

→**育つ、参加する権利の侵害**

問題意識

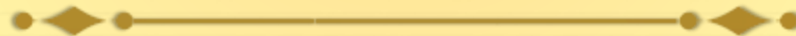
SCは、子供の権利条約で掲げられた4つの権利の全てが十分満たされていないといえる。

また、SCの現状においては、将来の可能性が制限され、路上で暮らす生活から脱却しようという意思さえ生まれにくい。

→SCだけではこの問題は解決できない、支援が不可欠。



3 問題を解決するために



支援について考える



- ✦ SCの問題は自力で解決できるものではなく、支援は不可欠。
- ✦ 考えられる支援

社会への啓発、衣食住の提供、就学支援など

→中でも、先程あげた二つの問題について、解決につながりうる支援をそれぞれ一つずつ紹介する。

実際の支援策①

I 路上での日々を生き延びるために必要な知識を、子供に伝える。

→「日常生活の中での命の危険」という問題の解決につながる。

II 子供たちに敬意をもって接し、子供たちが豊かな内面性・適切なコミュニケーション能力を身に付ける手助けをする。

→「正常な人間関係を築けない」という問題の解決につながる。

(この二者を総称してLife Skill Trainingと呼ぶことにする。)

→このLife Skill Trainingは、SCが人間らしい生活をできていない、という問題を解決する手段となりうる。

実際の支援策②

✦ 学校外の子供に非公式に教育を施す

→「教育を受けられない」という問題の解決につながる。

特に、フィリピンには**ALS (Alternative Learning System)** というものが存在する。これは、政府が実施するプログラムで、ノンフォーマル教育ながら学位を得られる可能性がある、という特徴を持つ。

→この**ALS**は、SCが教育を受けられていない、という問題を解決する手段になりうる。

調査の方針

✦ SCの現状を改善しうる支援として、


① **Life Skill Training (LST)**

② **Alternative Learning System(ALS)**

という二つの教育支援に注目し、**両者の実情、可能性、将来**について現地訪問を通して調査した。

教育の成果は数値化できるようなものではないので、支援の有効性を客観的に評価することはせず、**スタッフの話や成功例**をもとに**考察**を加えた。

なぜ教育支援に注目したのか



- ①教育支援は、実際に権利を侵害されている対象である子供たちに対して、直接的に働きかけることができる。
- ②教育支援を通して子供たちが自らエンパワーメントすることで、貧困脱却のための活動に主体的に関与するようになる。



4 life skill training(LST)

- ①定義
- ②注目したNGO (Kanlungan・Bahay Tuluyan)とプロジェクト
- ③効果
- ④課題

LSTの定義

人間らしい生活をするための内面的要素、日々の生存のための知識を”Life skill”と定義し、それらを子供に教えるものをLife skill training(LST)とする。



注目したNGO

Kanlungan Sa Elma

&

Bahay Tuiluyan



- ✦ 場所: マニラとその周辺地域
- ✦ 概要: ストリートチルドレンを中心とした、貧困層の子供を対象に、衣食住の提供やLST、権利保護を行っている現地NGO。



LSTの実情と可能性を見るため、
2 NGOをprojectベースに調査

Kanlunganのproject ～Residential Care & Training Center～

目的: SCの内外面をcareし、規則正しい生活に慣れさせる。

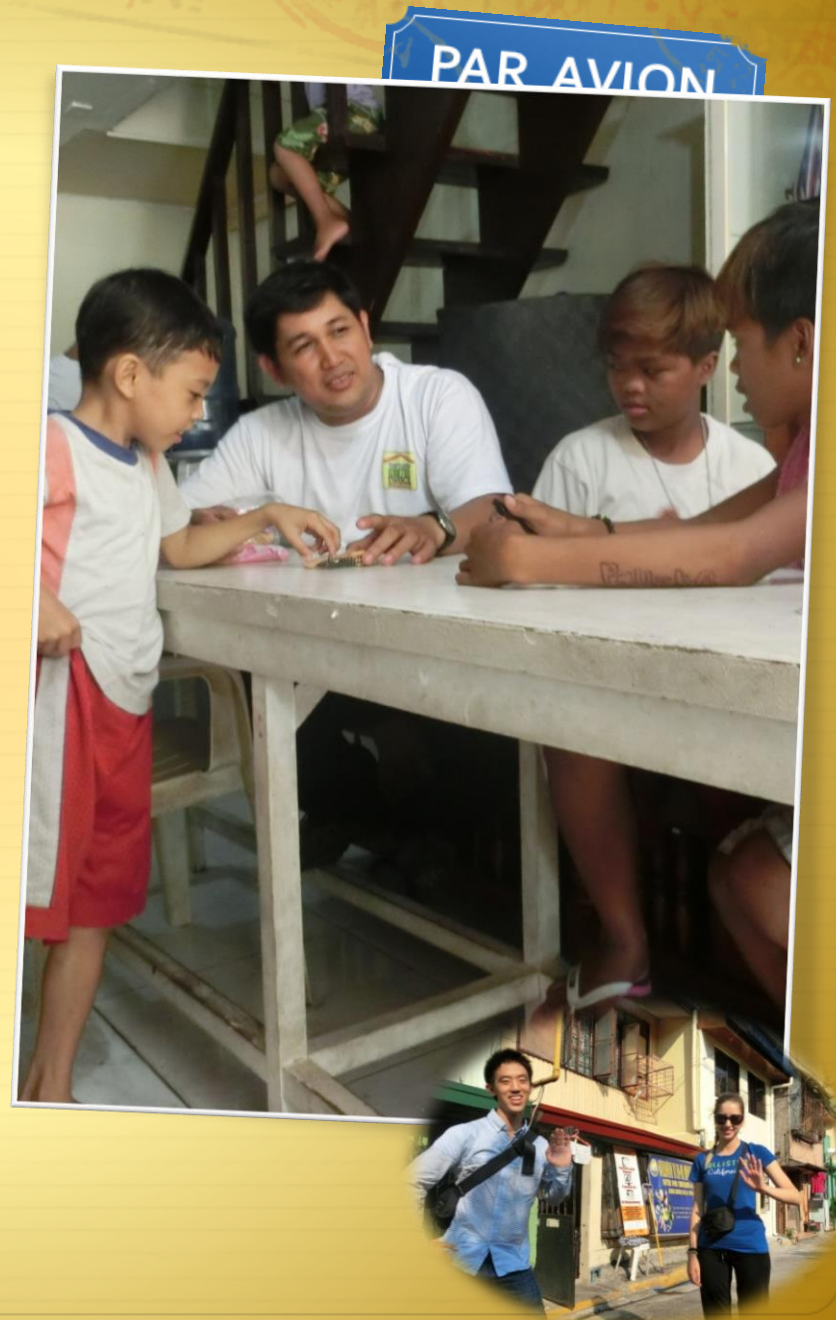
概要: 少人数のSCを施設で保護、6人の専門家で話し合い、各SCのニーズに合わせたLSTを施す。



Kanlunganのproject ～Open Day Center～

目的：路上の人生しか知らない
SCに、**他の人生、よりよ
い将来**を教える。

概要：**施設を訪ねてくる周辺**の
SCに食事やシャワーを
提供し、**対等な信頼関係**
を構築した上で、LSTも行
う。



Bahay tuluyanの プロジェクト ～①Drop in Center～

目的：**安全な場所(施設)**を提供した上で、LSTを行う。**公教育**に戻ってもらう。

概要：SCに対して**衣食住**や **LST**を提供。学校を中退した、その恐れがある子供の**公教育**への**復帰支援**も行う。



Bahay tuluyanの プロジェクト ～②Mobile Unit～

目的：SCの生活生存支援、スタッフとの信頼構築。Drop in Centerへの参加呼びかけ。

概要：バンに乗ってマニラ内のSCが集まる場所を回り、路上で、衣食の提供、自己防衛方法や道徳といったLSTを行う。



プロジェクトの効果 ～スタッフの方のお話～

<安全に生きる>

- ・施設周辺のSCは盗み、タバコ、暴力、路上生活を行わなくなった。

<正常な人間関係を築くための条件・結果>

- ・**成功体験**⇒自信
- ・ほとんどのSCが**家族のもと**へ (Residential care)
- ・SCの10/25が**学校**に行き、**SCから脱却**した。(Drop in center)
- ・**大学**に行ったり、**会社員**になったりする元SCもいる。また、**ALS**に参加する子もいる。
(Bahay tuluyan)
- ・卒業後、Kanlunganが運営する店、農園で働く人がいる。



プロジェクトの効果 ～スタッフの方のお話～

＜教育を受けられない内的要因の解決＞

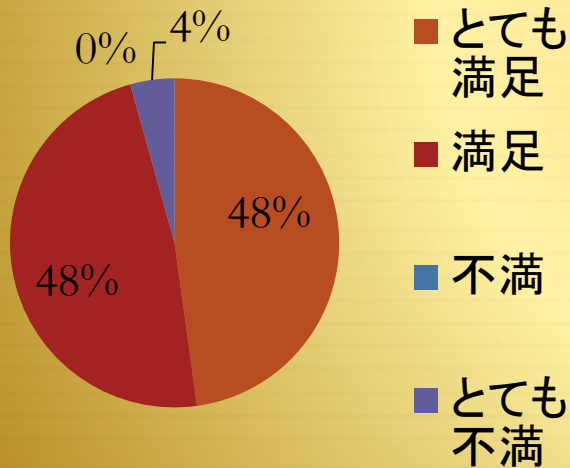
- ・元SCのスタッフが多いため、**SCの見本となり、意識改革**につながっている。



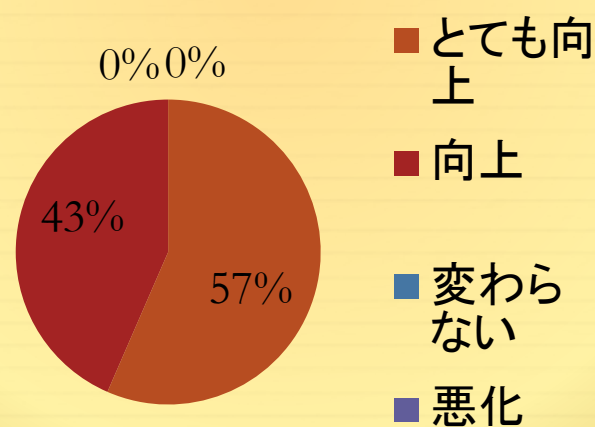
プロジェクトの効果 ～アンケート調査～

✦ プロジェクトに満足し、生活が上向いた子供がほとんどだった。(n=23)

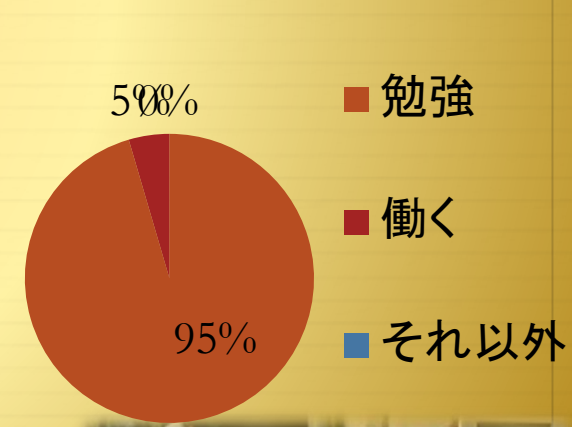
満足度



生活状況の変化



何をしたいか



プロジェクトの効果 ～卒業生～



① Kanlunganの経営するカフェ (ksem kafe) のスタッフ (22歳、男)

5歳のとき親が離婚、家族が離散し、SCに。

➡ 15歳頃、Kanlunganに誘われ、Residential Care Centerで職業訓練等を受けるように。

➡ 学校には行けなかったが、現在は**カフェで働いて生計を立て、母とも再会し、母親を養っている。**



プロジェクトの効果 ～卒業生～

①Bahayのスタッフとして働くDiana(女)さん

両親の離婚で家族が離散。姉と金乞い、物売り等をしていた。

- ➡ Mobile UnitでBahayへの参加を誘われる。他人と関わるのが怖く一度は断ったが、最終的に参加した。
- ➡ 学校には通えなかったが、**教育指導のスキル**等を身につけた。
- ➡ 人生経験を伝えるにオーストラリアに行き、Bahayのスタッフとして、SCを教えている。
現在は **家族とのつながり**もある。



プロジェクトの効果 ～卒業生～

②日本に留学もしていたMarcさん(男)

家族に捨てられ、SCに。ドラッグもしていた。

➡衣食がもらえるということで、友達とBahayに参加。

➡**自信や、勉強の動機付け**を得られ、奨学金も出してもらい、小学校へ

➡家族との繋がりはないが、**大学**にも行け、

Bahayの活動の中で、他のSCに対しても

助けの手を差し伸べられるようになった。



プロジェクト内容、 NGOについて

- ✦ 口コミ、友達同士で施設にきてもらうようにしている。
衣食住の提供で参加を促している。
⇒これらが、**教育を受けるようになるきっかけ**になる。
参加しやすくなる。
- ✦ NGO同士のネットワークがある
⇒教材・ノウハウ・情報の共有、キャパの共有。
- ✦ (Child to child
⇒**コミュニティ内での足の引っ張り合いが軽減**されうる。
仲間内でLife Skillが広まりうる。)

効果まとめ

<安全に生きる>

施設周辺SCは危険なことを行わなくなった。

<正常な人間関係を築くための条件・築けた結果>

成功体験を得て、自信がつく。

家族との繋がりを取り戻すSCが多い。

大学に行くSCや、成功するSCがでている。

<教育を受けない内的要因の解決>

教育の必要性、意義を感じ、

学校に行き出す。そのきっかけを得る。



問題点

～NGO側の問題～

✦ SCは**多種多様**な問題、**心の病**を抱えており、それぞれに合った教育が必要。

but **スタッフの限界・不足、専門のカウンセラーがない**

✦ **政府から支援がない。**

Cf) **資金不足。統一されたカリキュラムがない。**

問題点

～SC側の問題～

- ✦ プロジェクト中、SC同士で**暴力行為**をする。
- ✦ 施設内での教育だと、子供を囲い込む必要があり、**自由を奪う。⇒脱走、やめてしまう。**
- ✦ SCに戻ったり、学校に行かなかったりする子も多い。
- ✦ 学校に行っても、**いじめや差別**を受ける。
- ✦ **ドラッグやたばこ**等は、言っても簡単にやめさせられない。



5 alternative learning system (ALS)

- ① 定義
- ② 注目したNGO、公機関とプロジェクト
- ③ 効果
- ④ 課題

①ALSの定義

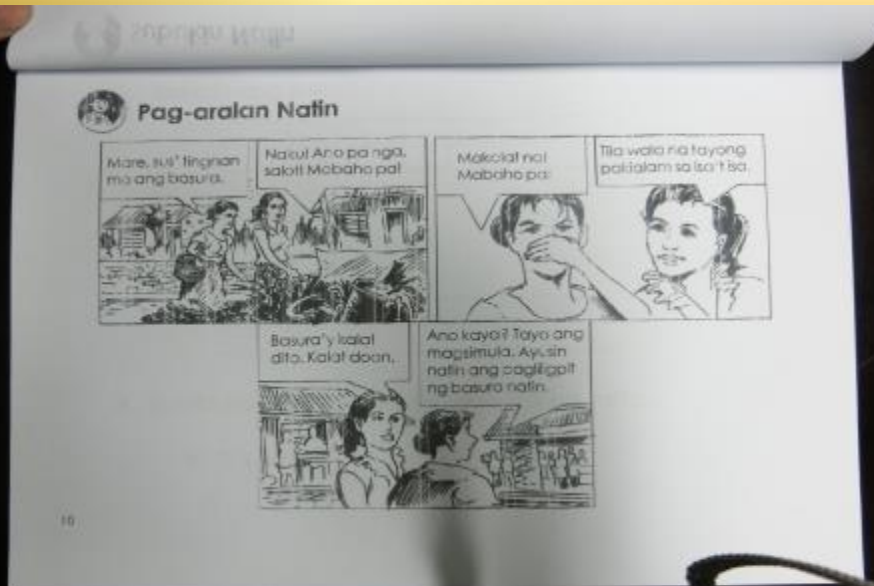
- ✦ ALS: Alternative Learning Systemの略。1990年代から、**公教育でのドロップアウト率が高いこと**を懸念した政府が開始した代替教育政策。試験に合格した生徒には卒業証明が与えられる。**10か月間の週1回の通学**によって資格取得が可能。



Street Childrenも**学習の機会**が得られる教育制度。

① Accreditation & Equivalency test

- ✦ 週1回の通学及びモジュールに基づく自主学習を行う。
- ✦ 10ヶ月で小学校卒業or中等教育卒業のdiploma。
- ✦ Diplomaは大学入学、就職時の判断基準となる。



プロジェクト、訪問機関

- ✦ Bahay Tuluyan
- ✦ Aurora Quezon Elementary School
- ✦ Pasay City West High School
- ✦ Global Peace Foundation, Navotas city education center
- ✦ Department of Education, in the Philippines



プロジェクト①

Bahay Tuluyan

PAR AVION

概要: ALSに関しては、**高校卒業に向けてのカリキュラムのみ**ある。Mobile Unit と呼ばれる路上教育を通して宣伝。

目的・・・子供のニーズに合わせて**きめ細かい教育**を行い、将来の選択肢を広げる



プロジェクト②

PAR AVION

Pasay City West high school

概要：高校の教師たちが、必要に応じて車などでパサイ地区を周り、**移動教育**も行っている。

目的：学校から中途退学してしまった人、仕事のランクアップのために学びたい大人などのために中等教育を**アクセスしやすい形**で提供する。



プロジェクト③

Global Peace Foundation

概要: フィリピンの広範囲の地域で、**地方政府と協力のもと**、学校に行っていない子供達、青年層に対して教育を行う。

目的: より高度の教育を欲する人たちに十分な教育を提供し、将来の仕事の**選択肢の幅を広げたり**、大学など高等教育への道を開く。



022617101325689363



プロジェクトの長所

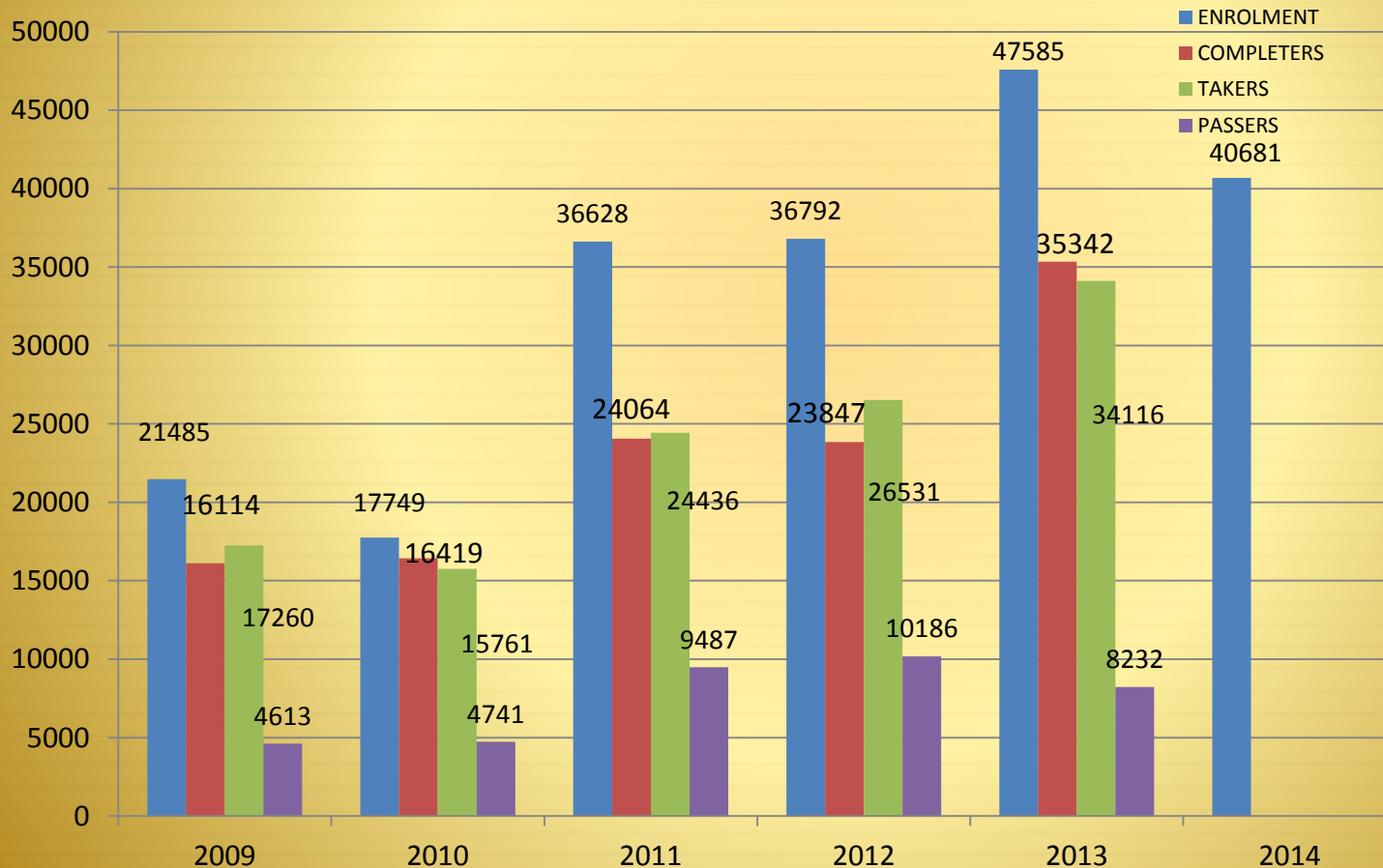
- ① 統一的教育モジュール → 週1回の通学でも着実に勉強を進めることが出来る。
 - ② 卒業生アシスタント → 教育の質向上を図っている
 - ③ Mobile teacher制度 → 距離的問題で通学出来ない生徒にも教育を提供。
 - ④ 事前のマッピング調査 → 現地のニーズを詳細に把握した上でプログラムを実行している。
 - ⑤ NGO間の連携 → キャパシティ問題の解消。
 - ⑥ 集団生活への適応力養成 → 社会生活に適合できるようになる。
= “育つ権利”の擁護
- ⇒ 継続して教育が受けられない “外的要因” を克服 = “参加する権利”の擁護

課題

- ✦ 資金不足から全てのSCに対する学習の動機付けは困難。
 - ✦ 最終的には生徒の意思に任されているため、継続しない人もいる。
- SCにとっての学習の動機付けは不十分。
- ⇒教育を受けない”**内的要因**”を解決することはできていない、
- ・ 週1回以外は自主学習に委ねられており、**修了テストの合格率が低い**。(後述)
 - ・ 財政上の理由から、優秀な教師の確保が難しい。
- ⇒**教育の質**を維持することの困難さ。

修了テストの低い合格率

出典: Department of Education in the Philippines



合格率30%程度

低い合格率の要因

A&Eテストの平均合格**30%**程度。
最も活動が盛んなパサイ市などでも**40%**程度



教師の質の問題

ALSの知名度＝注目度の低さ

教師の社会的地位向上

(Global Peace FoundationのALS担当者)



6 考察と結論

Life Skill Training



LSTは“安全に生きる”、“正常な人間関係の構築“に結びつくという実例が見られた。

⇒生きる、守られる権利侵害の改善

それだけでなく、LSTに参加する動機は何でもよく、結果的に教育に興味を持ってもらうきっかけになることで、学校に行かない内的要因を一部解決できる。

Alternative learning system

ALSによって、普段は仕事をしていて学校に通えない子供や、一度中退してしまった大人が、週1回から自分のペースで再び勉強することが出来る。週5回通学せねばならない公的教育機関と比べて継続が容易。

➡ **外的要因はALSで解決できる。**これにより、教育を受ける権利の侵害が多少なりとも解消される。ALSは、高等教育やより待遇の良い専門職などへの道を開くなど、**将来の選択肢の拡大**にも効果があるといえる。

問題点

Life skill training

①カウンセラー、スタッフ不足

⇒SCの多様なニーズ、問題、心の病に対応できない。
限界がある。

②**政府**からの支援がない。

③薬や煙草をやめられない。大部分が脱走したり、学校に行かず、**SCに戻る**。

Alternative learning system

①教員不足

政府から支援が

⇒SC全体をカバーできない+衣食住、LSTを提供できない。

②**教育**というには不十分。

③ALSを受ける**motivation**が必要

④**30%**しか合格できない。

人材不足

✦ ALS, LST共に**プロジェクト卒業生がスタッフ**になっている場合、循環が一部見られる。

⇒広まれば、多少なりとも解決されうる。

✦ bahay tuluyanの**child to child**: 子供同士で教え合う=子供すらスタッフのような存在になりえるよう

⇒人材不足を多少なりとも解決する手段となりえる。

Peer効果



失敗してしまう子供や、ALSで合格できない子供がいる。(LS
Tの問題点③、ALSの問題点④)

⇒**peer効果**

少しでも同じコミュニティから、成功者ができることが大事。それにより、**motivation**があがり、成功例も増大するとされる。

LSTとALSの連携



☆衣食住やロコミでSCをプロジェクトに呼び込む

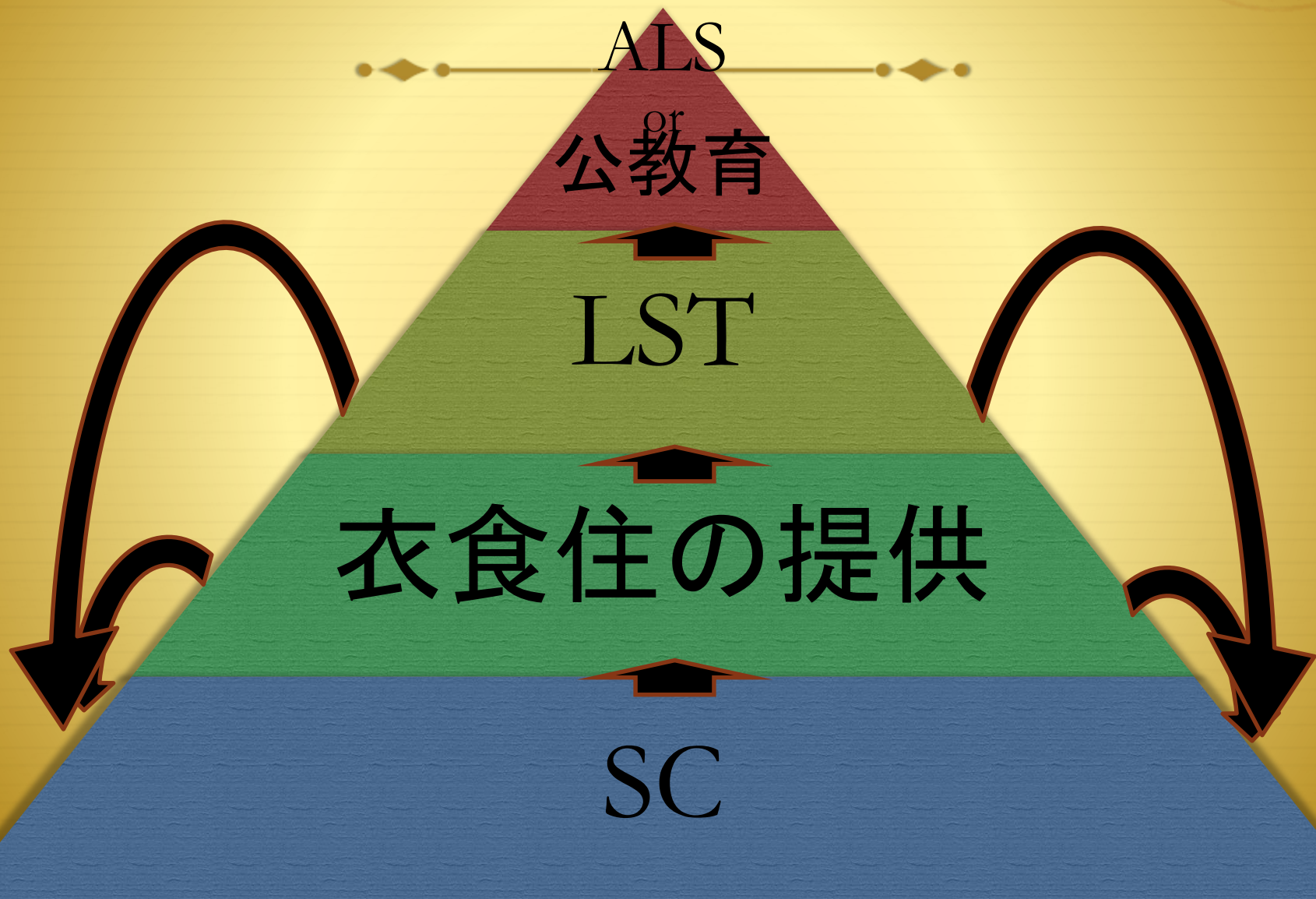
➡LSTを施し、勉強の価値、必要性、楽しさを教えられている

➡公教育への復帰、ALSへの参加

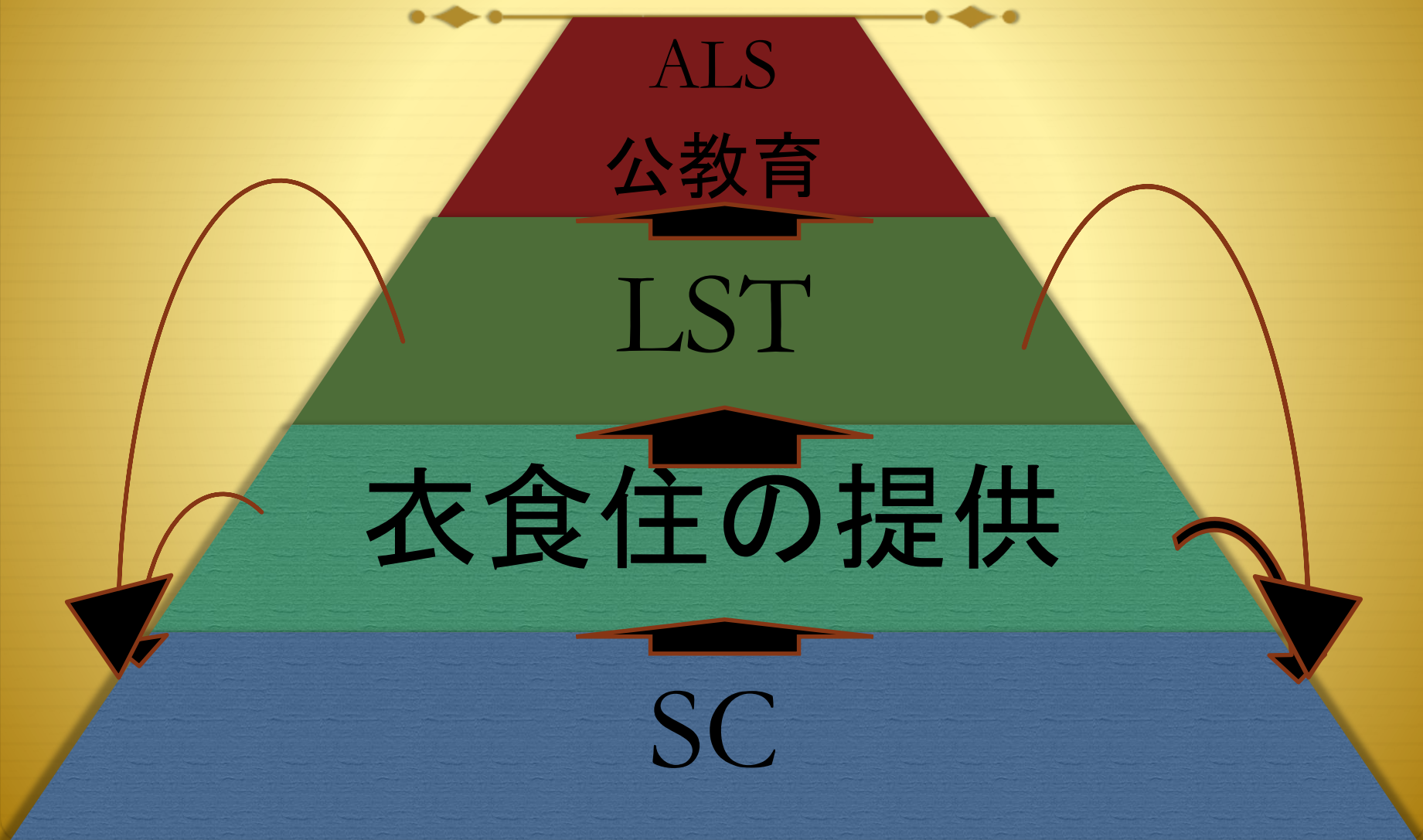
この流れが実際みられるが、これによって、LSTの問題点

①、ALSの問題点①②③を相互補完しあえる

LSTとALS、公教育の連携



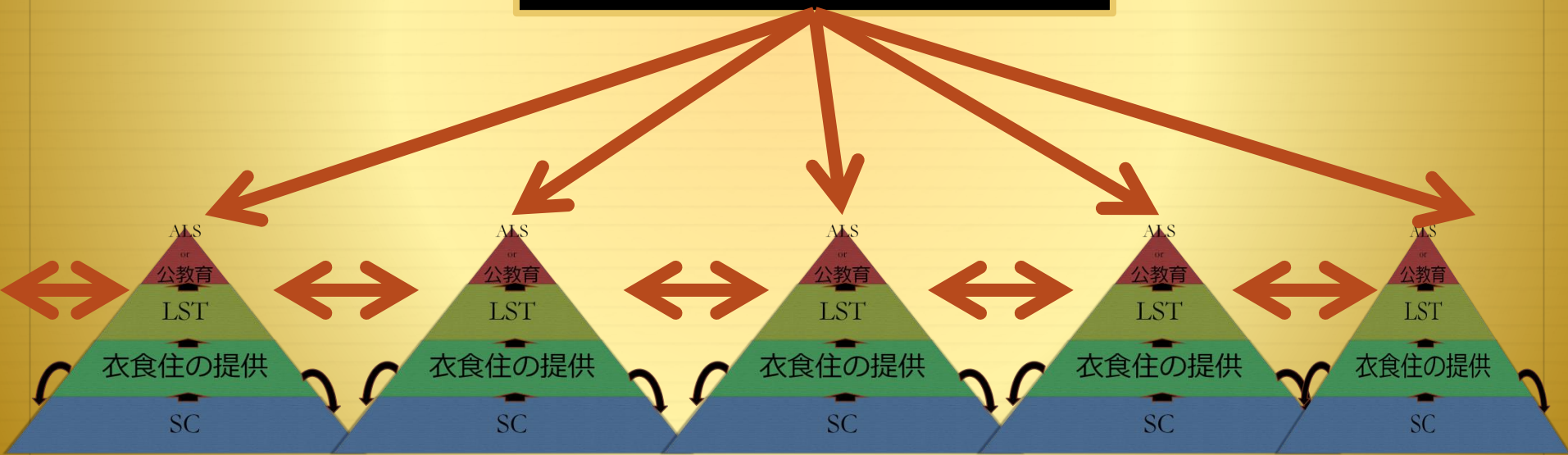
LSTとALS、公教育の連携





7 展望

教育省





8 參考文獻、訪問先

訪問先

- ✦ 国内訪問: Global peace Foundation Japan 後藤 亜也様ほか
- ✦ 現地訪問:
 - ✦ Bahay Tuluyan
 - ✦ Kanlungan
 - ✦ Pasay city west high school
 - ✦ Aurora elementary school
 - ✦ UNICEF Manila事務所
 - ✦ The Department of Education, Philippines Government
 - ✦ Global Peace Foundation in the Philippines

参考文献



- ✦ A study of Policies and Programmes in the Philippines Addressing the Right of Street Children to Education, Henry R. Ruiz, 2002



ご清聴ありがとうございました

注目したNGO

~Kanlungan Sa Erma~

- ✦ 場所: マニラ市マラテ地区、南北マニラ
- ✦ 目的: ドラッグのない、子どもたち(SC)にとって安全な環境の社会を目指すこと。
- ✦ 対象: 生活の質を向上させるために特別な支援を必要とするストリートチルドレンとその家族。丁寧なアプローチとキリストの教えを通じて支援し保護している。

Kanlunganのプロジェクト ～Open Day Center～

概要：施設を訪ねてくる周辺のSCに食事やシャワーを提供し、LSTも行う。

目的：路上での人生しか知らないSCに、他の人生、未来を教える。

方法：衣食住の提供で呼びかけ、誰にでもopenな形で、施設運営をしている。対等な信頼関係を結んだ上で、マナー等のLSを教える。

一回でも意味のあるドラッグ等の話は施設外でも布教している。

具体内容

：ご飯、ドラッグ、健康、スポーツ、テーブルマナー、皿洗い、掃除、taskを与えてやらせる。文字、計算

Kanlunganのプロジェクト ～Residential Care&Training Center～



概要: マラテにて、少人数のSCを施設で保護し、施設内でLSTを施す。

目的: ストリートで保護されて間もない子供の内面外面のcareと規則正しい生活に慣れさせる。

方法: 人数は男女10人ずつで半年サイクル。6人の専門家で話し合いながら、子供の多様なニーズに合わせて、独自カリキュラムでLSTを。宗教的アプローチを行っている。

具体内容

:

注目したNGO

~Bahay TUILUYAN~

- ✦ 場所: マニラのマラテ、ケソン、ラグーナ
- ✦ 目的: 1987年に発足したフィリピンの現地団体。フィリピンのすべての子どもたちの権利を守る。
- ✦ 対象: ストリートチルドレンを中心とした、フィリピンの都市貧困層の子供。

Bahay tuluyanのプロジェクト ～ Mobile Unite～

概要: **バン**に乗ってマニラ内の**SCが集まる場所**を回り、路上で、**衣食の提供、自己防衛方法や道徳**といったLSTを行う。

目的: SCの**生活生存支援**、スタッフとの**信頼構築**。Drop in Centerへの**参加呼びかけ**。

方法: child to childを実践し、元SCのボランティアも参加して、SCにオルタナティブ教育を行う。

スタッフの人数

: 4人のスタッフと15人ほどのボランティア。一回200人程度を相手に。

具体内容

: 自己防衛、ドラッグの危険性

Bahay tuluyanのプロジェクト ～Drop in Center～

概要: マニラにあり、主にストリートチルドレンに対して社会的サービスを提供する。また、‘Clare’ s Classroom ‘というクラスが設けられていて、学校を中退した、あるいはその恐れがある子供の公教育への復帰を支援している。

目的: **安全な場所(施設)**を提供した上で、LSTを行う。**公教育**に戻ってもらう。

方法: mobile uniteで誘ったSCや周辺のSCに対し、独自のカリキュラムを用いて、年齢別にLSTを行う。同時にシャワートイレ寝床も提供している。誰でも利用、享受できる。

スタッフの人数

: 4人のスタッフと15人のボランティア。年間700人を相手に

具体内容

: ドラッグの危険性、本を読む、文字の読み書き、計算

GPFのAlternative Learning System

- ✦ 概要 : GlobALSと呼ばれるプロジェクトで、マニラ3地区及びミンダナオ島、セブなど広範囲で行われる。地方政府との協力でマッピングを作成し、支援拠点を決定している。市庁舎近くのLearning centerを拠点に活動、ニーズに応じて不定期に教室を移動する。
- ✦ 目的 : 特に貧困層の多い地域に焦点を絞り、ノウハウのつまった質の高い教育を提供する。同時に農業技術支援などの訓練も授業の一環とし、貧困層の人々の自立を目指す。
- ✦ 内容 : LearningCenterでの教師、アシスタントによる指導、e-learning centerでのコンテンツ提供(一部地域)

Pasay City west high school



- ✦ 概要: フィリピンの中でもっとも教育に対する意識が高い Pasay 市に属する高校の施設内で、早朝に高校の教員たちが学外の Learners に対して教育を行う。**必要に応じて出前授業**も行う。
- ✦ 目的: 学校周辺の貧困層に対して必要な教育を施すことでより高度な職に就くことを支援
- ✦ メリット: 高校の施設、教員を活用しているほか、市政府からの支援が豊富にあり、質の高い教育を提供できる

Aurora Elementary school



- ✦ 概要: 小学校校舎の隣にALSの施設があり、低年齢層を中心に学んでいる。また、周辺の貧困層の家庭に対して定期的に資金援助、食物支援を行う
- ✦ 目的: 貧困層の子供に基礎的教育を施す。
- ✦ メリット: 一般教室児童との交流機会が多く、引け目を感じることなく一般教育、集団生活に復帰できる素地をつくる